

織毛虫における細胞間相互作用と翻訳終結因子 eRF1 の多様性の研究

生物科学コース 春本 晃江



赤い色素を防御物質としてもつブレファリズムマ

原生物織毛虫における捕食者 被食者間の相互作用において、認識に関わるのはどのような分子か、攻撃や防御に関わるのはどのような細胞小器官（または分子）で、どのような機構で攻撃や防御を行っているのかについて研究している。また、遺伝暗号は多くの生物において共通であるが、織毛虫では UAA、UAG、UGA という終止コドンの一部をアミノ酸のコドンとして翻訳する種が知られている。しかも織毛虫の種の間で eRF1 による終止コドンの認識のパターンは多様性に富んでいる。これが翻訳終結因子 eRF1 と tRNA のどのような変異により可能となっているのか、また織毛虫の系統でこの変異がどのように生じてきたかを明らかにしようとしている。

キーワード：接合 捕食者 被食者 放出体 遺伝暗号